

2014年3月24日

2014 国際医用画像総合展(ITEM in JRC2014)開催迫る！

2014国際医用画像総合展(ITEM in JRC2014)は、4月11日(金)～13日(日)の3日間、パシフィコ横浜展示ホールA(一部)・B・C・Dで開催される。

主催はJRC(日本ラジオロジー協会)、運営はJIRA(日本画像医療システム工業会)、後援は厚生労働省、経済産業省、日本医師会、神奈川県医師会、横浜市医師会、日本医学会、日本医療機器産業連合会、横浜市。

展示内容は、画像診断機器、医用画像システム、周辺機器やアプリケーションを中心に、企業161社が出展。

学会は、第73回日本医学放射線学会総会(会長は金澤 右・岡山大大学院)、第70回日本放射線技術学会総会学術大会(大会長は江口陽一・山形大医学部附属病院)、第107回日本医学物理学会学術大会(大会長は福士政広・首都大学東京大学院)で、3学会とも10日～13日の4日間、同会議センターで開催する。合同開会式は13時から、同センターのメインホールで開かれる。

国際医用画像総合展と3学会のメインテーマは「Face to Faces, Face to Communities, Face to the World—向きあう つながる そして広がる—」。

JRC2014の合同企画は、特別講演として「iPS細胞研究の現状と展望」。合同シンポジウムは「より安全で確実なIVRを目指して」(IVR被ばく／術者被ばく／看護師の立場からのpatient care／USガイド下穿刺での局所療法ConebeamCTを用いたIVR)、「医療被ばくの低減と正当化、最適化のバランス」(小児CT／患者が受ける線量の現状と低減化／低線量放射線の発がんリスク／適切な正当化・最適化の取り組み)、「つなげる人材育成とスペシャリスト養成」(放射線科専門医育成／技術の伝承と専門性向上／役立つ人材育成／チームワーク・人間関係を学ぶ場としてのサッカーの役割)の3題について行われる。また10日には、画像ワークステーションを用いたハンズオンによる診断法の実際を示した「CTコロノグラフィートレーニングコース」が開かれる。

日本医学放射線学会総会では、「肝胆膵画像診断update」「臓器の画像所見から全身疾患を診断する」「医学教育の現在と未来を考える」「肺癌局所治療の現状」「心臓CT／MRI update」「認知症の画像診断 update」「限局性前立腺癌の治療戦略」「Image-guided ablation」などをテーマに、シンポジウムが行われる。

その他、教育講演、治療と診断に分かれた研修医セミナー、イメージインタープリテーション、Focus Meeting、Overseas Lecture、指導者講習会など、多くのプログラムが予定されている。

12日には、北村晴男弁護士、杉村和朗JRC代表理事、金澤第73回日本医学放射線学会総会会長を演者に、「行列のできる医療法律相談所」が開かれる。

開催期間中、CyPos(電子ポスター)会場が国立大ホールマリノロビーに設置され、企業が開催するランチョンセミナーは、MRI・CT・PACS・IVR・造影剤などの最新動向をテーマにして、総計29会場で行われる。

=新医療=

以上